

なでしこ通信 第 53 号

《隔月発行》

— 目 次 —

- ★最高裁判決に異議あり
メリーランド大学講師 エドワーズ博美
- ★林修先生が教える「東大に入れる方法」
“ちびまる子ちゃんの家”が理想でしょ！
- ★第 2 回えひめ親守詩大会が開催されます!!
- ☆事務局から
【付録】「はだしのゲン」騒動記 大津寄章三

最高裁判決に異議あり ■ □

メリーランド大学講師 エドワーズ博美

最高裁は非嫡出子の遺産相続を嫡出子の半分とする民法の規定が法の下での平等を保障した憲法に違反するとして「違憲」との判決を下した。1995 年の「合憲」判断が翻された背景には、相続格差をなくす世界的な流れと、格差を規定した民法を撤廃するように求める国連からの再三の勧告があると産経新聞は報じていた。



国内事情や格差を撤廃した後の混乱を考慮せずに「世界的な流れ」に同調するのは愚の骨頂である。更には、国連の勧告と聞くといかにも国をあげて遵守すべきものであるかのように思われているが、果たしてそうだろうか。筆者の体験も交えて国連の勧告とは一体何なのか考えてみたい。

国連の各種人権条約を批准すると批准国には定期的な報告書の提出が義務付けられ、自国における人権の進捗状態を報告しなければならない。報告書は通常、外務省から委員会

に提出されるが、それとは別に国内のNGO団体もカウンターレポートと称するものを直接委員会に提出できるようになっている。問題はカウンターレポートを提出するNGO団体であるが、ほとんどが日弁連を初めとする人権団体で、自ずとその報告書の内容も察せられる。世界各国の人権状況を18人からなる委員会が把握することなど当然不可能なことで、この委員たちは人権団体から提出されたカウンターレポートを鵜呑みにして各国審査会で政府に質問を突きつけ、勧告を出しているのである。

ジュネーブで2010年5月27日と28日に行われた「児童権利条約」の日本審査会に友人に誘われて参加してきたが、その時も60足らずの傍聴席に対して、日本からなんと100人以上の左翼が押しかけており、保守系の参加者は我々4人のみだった。こうして大人数で押しかけることによって、いかにも日本では人権侵害が横行しているような印象を委員たちに与えるのだ。この審査会の傍聴者の中には重症身障者の子供を連れた人もおり「こうした子供が普通学校に通えないのは差別だ」と主張していた。また、チマチョゴリを着た在日朝鮮人の人達も10人近く押しかけ「朝鮮学校で授業料が無償化されないのは民族差別だ」と訴えている。もちろん、今回最高裁が判決を下した「非嫡出子が遺産相続で平等に扱われないのは差別だ」という意見もあった。

休憩時間に非嫡出子を取り上げたタイ人の委員に、「平等、平等と言うけれど、日本では慣習として今でも長男が年老いた両親の面倒や先祖の墓守といった責任を負っているのに、そうした子供と非嫡出子でなんら責任のない子供に同等の遺産相続権を与えることの方が、よほど不平等じゃないか」と聞いてみた。返ってきた答えは、「そうした日本の事情は全然知らないが、生まれてきた子供に罪はない」というものだった。日本の事情を何も知らない委員が左翼の口車に乗せられて好き勝手な要求を日本政府にしているわけだ。裏を返せば、自分達の権利を主張することしか頭にない人たちが、国連を通して日本政府に圧力をかけて自分達の要求を叶えさせる、こういう構図になっている。いわば、国連はこうした人権信奉者たちにいい様に利用されているのだ。

しかし、イタリア人委員が洩らしていたが、国連はこうした勧告を各国に履行させる拘束力を持ち合わせておらず、多くの国が国連の勧告に対して「国内事情」を考慮して反論している。日本も昔ながらの家族制度の良さや風習を前面に出して反論すればすむことなのである。古来からの風習や規定撤廃後の混乱を考えずに、世界の流れだからと相続格差違憲の判決を出したとしたら、一体どこの国の裁判官かと聞きたい。国連も国連だ。こうした些細なことに勧告を出す暇があったら、中国国内で横行している少数民族に対するこれこそ正真正銘の人権侵害にもっと知恵を絞ったらどうだ。

確かに生まれてくる子供に罪はない。しかし、現在もシリアでは罪のない子供たちの多

くが戦火で苦しんでいる。中国や北朝鮮国内で圧政に苦しんでいる子供たちの数は測り知れない。いくら平和や人権を叫んだところでこうした子供たちを救うことなどできない。大人たちが自分の行動の愚かさに気づき悔い改めるしか子供たちを救う方法はない。差別をなくしたければ、まず大人たちが自分の行動を悔い改め、そうした子供たちを作らない努力をするのが真っ当な生き方ではないのかと言いたい。世界の流れとか、国連それも左翼に牛耳られた国連の勧告だからといった理由で判決を出されたのでは国民はたまったものではない。同等の遺産を与えるのが果たして法の下での平等と言えるとも思えない。真の平等とは、責任の重さ、義務の遂行に応じた遺産を与えることではないのか。そもそも遺産とは家を守り墓守といった義務を履行するための対価であったはずだ。平等や人権よりもっと大切な義務感を、我々一人一人が真剣に見直す必要がある。



【化学兵器の犠牲になった子供】

エドワーズ博美先生 プロフィール

昭和29年、山口県生まれ。メリーランド大学大学院臨床心理科修了。アメリカ心理学会会員。2003年以降「世界紳士録」名前掲載。現在メリーランド大学講師。訳書に「独身者は損をしている～財産を築き、健康を維持し、子供の非行を防ぐ『家族』という仕組み～」(アメリカ価値研究所編)。当めざす会会員。
来年2月の第2回えひめ親守詩大会で講演「見直そう、日本の子育て」が予定されています。

◇◆林修先生が教える「東大に入れる方法」 “ちびまる子ちゃんの家”が理想でしょ！



■学力は5歳までの親の接し方で決まる

東大に合格できる子とそうでない子の差は何か？ 1ついえるのは、親の多くが本好きだ、ということです。家庭で楽しそうに本を読んでいる姿を見て育ってきた子は、高い確率で本好きになり、それが東大合格につながるのです。

本を読まない子、あるいは読めない子は、知識や想像力、構成力、読解力などで決定的な差をつけられることとなります。子供を東大に入れたいと考えるなら、親はそういう環

境をつくってやらなければいけない。

僕個人のことを振り返ってみても、学習能力を高めるうえで1番大きかったのは、3歳から5歳にかけての時期だったといえます。この時期に、文章を読むことがごく自然にできる環境を与えられていたことが大きかったのです。

僕は母方の祖父に猫っかわいがりされて育ち、両親といるより祖父母の家で過ごす時間が多かった。その祖父が最初に僕に買い与えてくれたのが紙芝居の「みにくいアヒルの子」でした。最初は祖父が読んでくれるのを聞いていたのですが、そのうち僕自身が読むようになった。祖父母はなかなかの聞き上手で、子供がたどたどしく話すのをニコニコしながら毎日毎日ずっと聞いてくれた。同じ物語を繰り返しているのだから



そのうち暗記し、スラスラ語れるようになる。すると親バカならぬ爺（じじ）バカ・婆（ばば）バカの祖父母は「うちの孫は天才だ」と喜び、褒めてくれる。そして次々と紙芝居を買ってくる。それも諳（そら）んじると、祖父母は聞き役だけでなく質問もしてくれる。僕は考え、答える。そうしたらまた「すごいね」と褒められる。この繰り返りで祖父の家では、僕はまるで紙芝居屋さんみたいでしたね。

■紙芝居の次は「子供百科事典」

紙芝居を卒業すると次には「子供百科事典」が登場し、ゾウはこれで、ライオンはこういう生活していると語り合う。これが3歳から5歳にかけてのことです。

この時期にたくさんの物語を言葉に出して抑揚豊かに読むことは、僕の脳にとってすごい刺激だったと思う。おかげで読書が楽しくなり、習性となりました。僕の日本語力の基礎は、この小学校入学前の時期につくられ脳のスペックが間違いなく大きくなっていったと思います。

湯川秀樹博士は4、5歳ぐらいから祖父に漢籍の素読を習っています。後年、「私はこのころに漢籍を素読したことが決して無駄とは思わない。意味もわからず素読を繰り返すうちに漢字に慣れ、その後の読書を容易にしてくれた」という趣旨のことを語っています。博士の3人の兄弟は全員が京都大学の教授になっていることを思うと、幼少期の読書習慣



の大切さがわかります。小学3、4年になると「調査熱」は一段と高まりました。例えば戦国大名の大友宗麟（そうりん）が何年に生まれ何をしたと、その経歴を調べてはわら半紙に書き写すのです。本の丸写し。意味のわからない言葉もそのまま丸写しして、それを「歴史新聞」と題して発行していました。わら半紙はたまりにたまって

収納していた茶箱が 30 箱を超えました。

■書き写す作業はものすごく尊いこと

この「歴史新聞」の発行に幸いしたのは、当時、コピー機が身近になかったことです。鉛筆でひたすら書き写すしかないので。しかも百科事典によって内容が異なると、全部の事典を書き写す。そのうちに自分なりの大友宗麟像を書き添えるようになる。書き写しているうちに、頭の中で「思考と整理作業」をしていたのです。「読み書きソロバン」は近代以前からの日本の教育の原点ですが、今はその「書き」がおろそかになっています。小学生のうちに、書くことをいとわない感覚を持たせる。まず書ける土壌を作るために文章を丸写しする。この、書き写す作業はものすごく尊いことなのだ、今、人を教える立場になってことさら痛感しています。コピペはダメ。時代がどう変わろうが、とにかくこの習慣だけは絶対に絶やしてはいけません。

■どうすれば勉強好きな子供にさせられるか

子供が問題を解けないときには、「わからない時間」をどれだけ親子で共有できるかが大切だと思います。書き写しも、最初は親子で一緒にやればいいのです。

算数が苦手な子には、同じドリルを 2 冊買ってきてお母さんも一緒にやればいい。そのとき注意するのは、量を増やしたりレベルを上げるのではなく、つまづいているところに必ず立ち返って 1 からやり直すことです。基礎ができていないと絶対に前には進めません。だからわかるレベルまで立ち返ってやり直す。1 学年下のレベルでもいいじゃないですか。

では、どうやれば勉強好きな子供にさせられるか。そもそもこの「させる」という考え方がすでに大間違いなのです。心理学者の河合隼雄さんの受け売りですが、教育って、教え育てることではなく、「教え育つ」なんです。そして子供は両親だけでは育ちません。おじいちゃん、おばあちゃん、友達、先生、近所の人、サークルの仲間、いろんな人が作る大きなバスケットの中で育つのです。親もそのバスケットの 1 要素でしかないのです。

■緊張と弛緩がある豊かな関係が大事

僕がいいと思うのは、テレビアニメの「ちびまる子ちゃん」の家庭。まる子ちゃんは、お母さんには厳しく叱られ、お姉ちゃんとは結構厳しいライバル関係だけど、友蔵じいちゃんとはクダラナイことばかり言い合っている。この冗談が言い合える人間関係ってけっこう大切なのです。家庭や生活環境の中に、緊張と弛緩が程よいバランスで存在することになり、それが人格形成にも貢献していくからです。

もしいま、お子さんが小学生や中学生で「土台作りを損ねてしまった」と思うのであればどうすればいいか。焦らず、今できる、正しいことをやればいいのです。1 番大事な

は、その子に向けた指導をしてやること。他の子に当てはまる勉強のやり方でも、それがわが子に適しているかどうかは別です。成長には個人差があり、早めに伸びる子もいれば、後から成長してくる子もいます。お母さんは目の前の成績にとらわれないことが重要です。土台を作りなおすくらいの気持ちで、お子さんに正面から向き合うことです。事を始めるのに遅すぎるといえることはないのですから。じゃあいつやるか、それこそ「今でしょ！」なのです。

■緊張と弛緩がある豊かな関係が大事

僕がいいと思うのは、テレビアニメの「ちびまる子ちゃん」の家庭。まる子ちゃんは、お母さんには厳しく叱られ、お姉ちゃんとは結構厳しいライバル関係だけど、友蔵じいちゃんとはクダラナイことばかり言い合っている。この冗談が言い合える人間関係ってけっこう大切なのです。家庭や生活環境の中に、緊張と弛緩が程よいバランスで存在することになり、それが人格形成にも貢献していくからです。

もしいま、お子さんが小学生や中学生で「土台作りを損ねてしまった」と思うのであればどうすればいいか。焦らず、今できる、正しいことをやればいいのです。1番大事なのは、その子に向けた指導をしてやること。他の子に当てはまる勉強のやり方でも、それがわが子に適しているかどうかは別です。成長には個人差があり、早めに伸びる子もいれば、後から成長してくる子もいます。お母さんは目の前の成績にとらわれないことが重要です。土台を作りなおすくらいの気持ちで、お子さんに正面から向き合うことです。事を始めるのに遅すぎるといえることはないのですから。じゃあいつやるか、それこそ「今でしょ！」なのです。

第2回えひめ親守詩大会が開催されます！！	
日 時	平成26年2月22日（土）13:30～16:00（開場12:30）
会 場	砥部町文化会館（伊予郡砥部町宮内1410番地）
プログラム	第1部 入選作品の鑑賞会 第2部 講演「見直そう、日本の子育て」（エドワーズ博美先生） 第3部 表彰式
主催：えひめ親守詩大会実行委員会（委員長 渡部浩三・事務局長 青井美智子）	

◇◇◇ 事務局から ◇◇◇

★親守詩の応募用紙を同封致しました。奮ってご応募下さい。みなさまやご家族の方々の応募をお待ちしております。応募締め切りは来年1月の10日（金）でございます。

★海南タイムズに掲載されました「はだしのゲン」に関する大津寄先生（当会幹事）のご文章を同封いたしました。

★えひめ親守詩大会実行委員会の渡部委員長は平成23年よりめざす会の顧問でいらっしゃいます。

★めざす会の住所が、初代の小笠原ミワ子会長の西石井のご自宅から私、青井の自宅に変わりました。

★毎月2～4回ランチ学習サロンを開催しております。日時や会場は下記までお問い合わせ下さいませ。

★会費の切れる方に払込取扱票を同封しております。引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。2000円お願いできれば幸いです。

健全な男女共同参画社会をめざす会

会長 青井 美智子

〒791-0221 東温市上村甲 218 番地

ホームページ <http://www.mezasukai.com/> 電話 090-8971-7721 FAX 089-964-3903

メール michikoaoi25@yahoo.co.jp (件名を明記してください)

【付録】 「はだしのゲン」騒動記 松前町立岡田中学校教諭 大津寄章三
(海南タイムズ Vol.429 (平成25年9月25日発行) に掲載)

盆過ぎの新聞記事が目をついた。松江市教育委員会が原爆マンガ「はだしのゲン」を小中学校生が自由に閲覧できない閉架措置にした、というものである。興味深いのはその理由が「発達段階の子供にとって一部の表現が適切かどうか疑問が残る」（古川副教育長）として、事例として首をはねたり、女性を乱暴する場面が挙げられていることである。

実のところ、この答弁はいかにも建前の色が濃い。というのも「ゲン」については、以前から歴史認識を問題として撤去を求める陳情が同教委に寄せられていたからである。

個人的に言えば、私は広島での学生時代に「ゲン」の作者・中沢啓治氏に面会したことがあるし、間一髪で爆死を免れ、家族を含む多くの知己を一瞬にして失った氏の悲劇、そして何より息を呑むヒロシマの地獄絵の描写は体験なくしては伝えられない貴重な一級資料であろうと思っている。作品自体には妙にスベるハイテンションのギャグがちりばめられ、いわば面白くない漫才を延々と見させられているような居心地の悪さがあるのだが、原爆と米軍への直截な怒りは紛れもなく被爆地の声を代弁していると断言していい。

しかし、なのである。そこから導き出されている歴史認識の方向はあまりにも酷すぎると言わざるをえない。たとえば日本軍の“蛮行”についてゲンはこう語る。

「首をおもしろ半分に切り落としたり、銃剣術の的にしたり、妊婦の腹を切りさいて、中の赤ん坊を引っ張り出したり、女性の性器の中に一升ビンがどれだけ入るかたたきこんで骨盤をくぐらせて殺したり」「わしゃ日本が三光作戦という殺しつくし、奪いつくし、焼きつくすでありとあらゆる残酷なことを同じアジア人にやっていた事実を知ったときはヘドが出たわい」

昭和天皇についてはこうである。

「あの貧相なつらをしたじいさんの天皇・今上裕仁を神様としてありがたがりデタラメの皇国史観を信じきった女も大バカなんよ」「天皇は戦争を起こし日本中の街やこの広島や長崎をピカで焼け野原にし、わしのとうちゃんや数えきれない人を殺し、いまでも苦しめている戦争の責任者じゃないか。なんでありがたがって歓迎しないといけんのじゃ（中略）天皇はよくこの広島へのこのこやってこれるのう。いまでも多くの死体が埋まっているこの広島へ。わしだったらはずかしくて苦しくてとても人前に出れんわい」

どん底の暮らしの中、市民たちが陛下を迎えるため手作りでこしらえた国旗も君が代も、ゲンにかかれば「国旗じゃない」「クソクラエ」とボロボロの扱ひである。そこには退位や死をも許されない状況下、ひたすら民の身を案じ三万キロを超えるご巡幸を繰り返された昭和天皇の御心や、その思いに応え敗戦から立ち上がろうとする国民の気概に対する配慮は微塵も感じられない。また、米中のプロパガンダにのっかり、三光作戦も南京事件も日本軍の犯罪、被爆さえ身から出たサビであり、アジアと世界に詫びようもない過誤を犯したと中沢氏は断罪する。数百年にも及ぶ列強の植民地支配や人種差別、着々と練られた米国の対日参戦の意志、共産主義の脅威や多くの邦人の命を奪ったシナ情勢の混迷、飛躍的に文明と生活を向上させた半島情勢などの観点も見事に抜け落ちてしまっている。

被爆者が反米に傾くことは理解できる。しかし、皮肉なことにその歴史観は戦後 GHQ により巧妙に刷り込まれた太平洋戦争史観に完璧なまでに閉じ込められてしまっている。中沢氏の強烈な体験は、人影を石段に縫い付けた原爆の熱線のようにゲンを異論を許さないきわめて特異な歴史認識の中に置き去りにした。今回の松江市教委の判断が、本音にあたる歴史認識の議論にまでつながることを期待してやまない。